

- 問1 奈良時代の都の跡などから出土する、細長い木の板に墨で文字が記された「木簡」は、当時の税制度においてどのような役割を果たしていましたか。その内容として最も適切なものを選びなさい。 (2024年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|
| 1. 班田収授法によって農民に分け与えられた土地の所有証明書 | 2. 地方から都へ運ばれる租税である調や庸に付けられた荷札 | 3. 役人が地方へ派遣される際に、その身分を証明するために携帯した札 | 4. 大陸との貿易を行う船に積み込まれた、公式な貿易許可証 |
|--------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|
- 問2 奈良時代の聖武天皇が進めた寺院建立の仕組みについて、都と地方の関係性を正しく説明しているものはどれですか。 (2021年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 各地の有力な豪族が私的に建てた寺院を、聖武天皇がすべて国分寺として公認する制度を整えた。 | 2. 地方の国ごとに守護を配置し、その守護が中心となって都の東大寺を上回る規模の寺院を各地に建てた。 | 3. 遣隋使や遣唐使として派遣された僧侶たちが、帰国後に自らの出身地に独自の国分寺を建立した。 | 4. 都に建立された東大寺を総本山とし、全国の各地方に配置された国分寺・国分尼寺をネットワーク化した。 |
|---|--|---|---|
- 問3 古代日本が中国の王朝へ使節を派遣した主な目的のうち、律令国家の形成という観点から述べた背景として最も適切なものはどれですか。 (2025年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 唐の進んだ律令制度を学び、天皇を中心とした法に基づく中央集権的な統治体制を構築するため。 | 2. 鉄資源を安定的に確保するために、朝鮮半島南部における権益を唐の皇帝に保障してもらうため。 | 3. 勘合符を用いた貿易によって、国内の寺院や神社を造営するための豊富な資金を確保するため。 | 4. 金印を授かることで、国内の有力な豪族を抑えて倭王としての地位を国際的に認めてもらうため。 |
|---|---|--|---|
- 問4 奈良時代の聖武天皇の時期、政府はそれまで維持していた「すべての土地は国家のものである」という公地公民の原則を緩和しました。新しく開墾した土地を永久に個人のものであるとして認めることで、人々の開墾意欲を高め、税収を確保しようとした法令を何といいますか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|------------|----------|----------|
| 1. 公事方御定書 | 2. 墾田永年私財法 | 3. 御成敗式目 | 4. 武家諸法度 |
|-----------|------------|----------|----------|
- 問5 平城京跡からは、当時の税の仕組みを知る手がかりとなる「木簡」が多数出土しています。例えば、紀伊国（現在の和歌山県）から塩が納められたことを示す記述が見つっていますが、このような地方の特産品を納める税制度について、その特徴を説明したものとして最も適切なものを選びなさい。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------|--------------------------------|------------------------------|--------------------------------|
| 1. 都で年間10日間働く代わりに、布を納める義務 | 2. 九州北部の防衛のために、3年間兵士として派遣される義務 | 3. 各地の特産品を、納税者自らが都まで運んで納める義務 | 4. 収穫した稲の約3%を、各国に設置された倉庫に納める義務 |
|---------------------------|--------------------------------|------------------------------|--------------------------------|
- 問6 7世紀後半から8世紀にかけて、日本は唐の制度を参考に中央集権国家の仕組みを整えました。このとき導入された、6歳以上の男女に土地を与え、その人が死ぬと国に土地を返還させる制度の名称を、次のうちから選びなさい。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|------------|
| 1. 太閤検地 | 2. 地租改正 | 3. 班田収授法 | 4. 墾田永年私財法 |
|---------|---------|----------|------------|
- 問7 奈良時代の年表において、天平文化が栄えた時期に活動した人物について述べたものです。橋や道路の建設、ため池の築造といった社会事業を行いながら、当時禁止されていた民衆への布教活動を精力的に行った僧侶は誰ですか。 (2017年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 鑑真 | 2. 行基 | 3. 最澄 | 4. 道鏡 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問8 8世紀の聖武天皇の時代、全国に国分寺・国分尼寺を建立して仏教による国家鎮護を図った時期の地方統治の様子を説明した文として、適切なものはどれか。 (2025年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 地方の農民の中から選挙で選ばれた代表者が、都へ送られて地方行政の指針を決定した | 2. 中央の都から派遣された国司が、地方の行政・司法の責任者として諸国を治めた | 3. 地元の有力な豪族が国司に任命され、代々にわたってその土地の支配権を世襲した | 4. 天皇から直接任命された武士が各地に赴き、年貢の徴収や土地の管理のみを専門に行った |
|--|---|--|---|
- 問9 律令国家が全国的な「戸籍」を作成し、6歳以上の男女に土地を分け与える「班田収授の法」を施行した最大の目的は何ですか。 (2022年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 大陸から伝わった高度な農具を、身分に応じて平等に配布するため | 2. 十七条の憲法を普及させ、役人が守るべき道徳を全国に徹底するため | 3. 人々の氏名や年齢を把握し、租・庸・調などの税を確実に徴収するため | 4. 仏教を広めることで、疫病や社会不安を鎮めるための台帳とするため |
|-----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
- 問10 律令制における「調」という税が、当時の政府にとってどのような役割を果たしていたか、その説明として最も適切なものはどれですか。 (2024年 福井県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|--|---------------------------------------|----------------------------------|
| 1. 各地の国府で蓄えられ、飢饉の際の救済用食料として保管された。 | 2. 公地公民制を維持するため、農民に土地を割り当てる対価として徴収された。 | 3. 有力な農民が地方の政治に参加するための、一種の参加費として機能した。 | 4. 都での政府の運営経費や、貴族への給与としての財源になった。 |
|-----------------------------------|--|---------------------------------------|----------------------------------|
- 問11 大分県の歴史をまとめた資料において、古代の豊後（ぶんご）の国の様子を伝える史料として「地理や産物、伝承が記録された地誌」が紹介されています。この史料の内容として最も適切なものはどれですか。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 天皇の系譜や神話を中心に、日本の成り立ちを物語風に記したもの | 2. 大陸との交流や政治的な出来事を、年代順に詳しく記述したもの | 3. 天皇から防人、農民にいたるまで、幅広い人々が詠んだ歌を収録したもの | 4. 各国の土地の様子や特産物、地名の由来や古い言い伝えを記したもの |
|-----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
- 問12 群馬県の伊香保を詠んだ和歌などが収録されている『万葉集』の原文において、すべて漢字のみで構成されているものの、現代のひらがな表記と照らし合わせると漢字一文字が日本語の一つの音に対応するように記述されている。このような表記方法を何と呼ぶか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 1. 万葉仮名 | 2. 候文 | 3. 漢文訓読 | 4. 国字 |
|---------|-------|---------|-------|
- 問13 奈良時代にまとめられた日本最古の和歌集について、天皇や貴族の歌だけでなく、九州の北海岸などの警備にあたった「防人（さきもり）」や農民など、幅広い階層の人々の歌が収められているという特徴を持つものはどれですか。 (2020年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-----------|--------|--------|
| 1. 古今和歌集 | 2. 新古今和歌集 | 3. 懷風藻 | 4. 万葉集 |
|----------|-----------|--------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 地方から都へ運ばれる租税である調や庸に付けられた荷札	木簡は紙が貴重だった時代に、記録や伝達のために広く使用されました。特に、地方から都へ納められる特産物の「調」や、労役の代わりの布である「庸」などの荷物に、送り主や品目、産地などを記した荷札として付けられていたことが、平城京跡などから出土した大量の木簡から判明しています。これにより、当時の物流や租税制度の具体的な仕組みを知ることができます。
問2	答え 4 都に建立された東大寺を総本山とし、全国の各地方に配置された国分寺・国分尼寺をネットワーク化した。	聖武天皇は中央集権的な国家体制を強化するため、宗教面でも都を頂点とする組織作りを行いました。都の東大寺を中心（総本山）とし、地方の各国に配置された国分寺・国分尼寺がそれに連なる仕組みを整えることで、仏教を通じた国家の統一と安定を図りました。これは、当時の律令国家としての地方統治の仕組みとも深く関わっています。
問3	答え 1 唐の進んだ律令制度を学び、天皇を中心とした法に基づく中央集権的な統治体制を構築するため。	当時の日本は、天皇を頂点とした強力な国家体制を築くことを急いでいました。そのため、唐の高度な法律体系（律令）や官僚制度、租・庸・調などの税制をモデルにする必要がありました。遣唐使が持ち帰った知識は、大宝律令の完成や平城京の造営などに大きく貢献しました。
問4	答え 2 墾田永年私税法	743年に制定されたこの法令は、人口増加による食糧不足を解消するために、自らの力で新しく耕した土地については、子孫代々にわたって私有することを許可したものです。それ以前は三世代に限定して私有を認めるなどの措置が取られていましたが、より強い動機づけのために永年（永久）の私有が認められました。
問5	答え 3 各地の特産品を、納税者自らが都まで運んで納める義務	木簡は荷札として利用されており、そこには「調」として納められた特産品の内容や送り主の住所が記されていました。調は、地方の特産品を都の政府に納める義務ですが、運搬にかかる費用や食費もすべて納税者の自己負担であったため、農民の生活を圧迫する大きな要因となりました。
問6	答え 3 班田収授法	唐の律令制度を模範としたこの土地制度は、すべての土地と人民は国家のものであるとする「公地公民」の原則に基づいています。戸籍に基づいて6歳以上の男女に「区分田（くぶんでん）」を与え、死後に返還させることで、租（稲の収穫高の約3%）を徴収する財政基盤を確立しようとした。
問7	答え 2 行基	奈良時代の仏教は本来、国家の安泰を祈る「鎮護国家」のためのもので、僧侶が一般の民衆に直接布教することは禁じられていました。しかし、この僧侶は独学で修行を積み、土木技術を駆使した社会事業を通じて民衆の信頼を勝ち取りました。その絶大な影響力に注目した聖武天皇は、のちに彼を大僧正として迎え、東大寺の大仏造立への協力を依頼しました。
問8	答え 2 中央の都から派遣された国司が、地方の行政・司法の責任者として諸国を治めた	聖武天皇が仏教による平和を願った奈良時代、地方には都から「国司」が派遣されていました。彼らは任期制の官吏であり、中央政府の意向を地方に伝える役割を果たしました。一方、その下の単位である「郡」を治めた「郡司」は、地元の豪族が任命されるのが一般的でした。この中央から人を派遣する仕組みが律令国家の大きな特徴です。
問9	答え 3 人々の氏名や年齢を把握し、租・庸・調などの税を確実に徴収するため	唐の制度にならって整備された律令国家では、戸籍をもとに口分田を割り当てる一方で、人々に税や兵役の義務を課しました。稲を納める「租」のほか、都での労働や特産物を納める「庸・調」などは国家財政の重要な基盤であり、それらを正確に管理・徴収するために戸籍が不可欠でした。
問10	答え 4 都での政府の運営経費や、貴族への給与としての財源になった。	調によって全国から集められた布や多種多様な特産品は、都における中央政府の活動資金や、役人である貴族たちの給与として分配されました。これに対し、稲を納める「租」は主に地方の役所（国衙）の運営費用に充てられたという違いがあります。
問11	答え 4 各国の土地の様子や特産物、地名の由来や古い言い伝えを記したもの	風土記は、朝廷が地方を統治するために各国の情報を収集した報告書です。設問にある豊後国（現在の大分県の一部）の風土記もその一つで、当時の地理（地形）、産物（特産品）、伝承（伝説や由来）といった情報が網羅されていました。これにより、中央政府は遠方の土地の状況を具体的に把握することができました。
問12	答え 1 万葉仮名	当時の人々は、自分たちの言葉である日本語を書き残す際、外来の文字である漢字を「音（オン）」や「訓（クン）」として利用しました。例えば「いかほ」という地名を「伊香保」と書くように、漢字本来の意味を無視して日本語の音を写し取ったもので、これが後の平仮名や片仮名の原型となりました。
問13	答え 4 万葉集	奈良時代の文化を代表する歌集で、全20巻に約4500首の歌が収められています。貴族だけでなく、防人の歌や東国の人々の生活を詠んだ「東歌（あずまうた）」などが含まれており、当時の人々の感情や暮らしぶりを直接伝える貴重な歴史資料としての側面も持っています。